

04

校庭の樹木観察 ～木に親しもう～

四日市市立中央小学校



森のせんせいからの解説



教わったことをさわって確かめる



教わったこと・調べたことのまとめ



墨と筆で名札づくり



名札の取り付け



写真を撮ってクイズづくり

ねらい

・校庭の木の観察を通して、木や森について興味・関心を高める

取組内容

四日市市の中心部に位置する本校の子どもたちの多くは、商店街や住宅街の中で道端の雑草すらほとんどない道を登校しています。このため、校庭の樹木は、子どもたちにとって、自然への興味関心を高めるための身近で貴重な教材であると言えます。今回の出前授業では、森のせんせいから観察を通して木や森林について教わりました。

子どもたちは、一生懸命にメモを取りながら森のせんせいの話を聞き、次々と紹介されるそれぞれの木の特徴に新鮮なおどろきを見せていました。木にはそれぞれ名前があり、名前の由来があること。針葉樹と広葉樹、常緑樹と落葉樹、在来種と外来種があること。その木の実や葉を食べたり、その木をすみかにしたりしている生き物たちがいて、自然界の中で生き物たちは繋がっていること。そして、私たち人間も、それぞれの木の性質により、良質の木材として、生け垣として、油や医薬品の原料として、また食用として、様々な形で生活の中で利用してきたこと。今まで何となく見ていた校庭の木々との、新たな出会いとなりました。

この活動は、子どもだけでなく、教師にとっても森林への興味関心が高まり、教材研究とその後の活動が広がるきっかけとなりました。またその後は、森のせんせいから教わったことやさらに調べたことをまとめて全校に紹介したり、教わった木の名札を作って取り付けたり、季節が変わった後に、それぞれの木の写真を撮ってクイズにして伝え合ったりする活動に繋がりました。

内容	・樹木観察 ・森と樹木の話
時間	2 時間（理科）
場所	校庭
対象	4 年生 17 人
講師	森のせんせい：山野内宗広氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 自然の魅力を学ぶための教材はすぐ身近にあります。何に着目し、どう切り取って子どもに伝えるか、その大切さを改めて教わりました。